

# San-iku 通信

社会福祉法人賛育会の広報誌「さんいくつうしん」

TAKE FREE

SEAP2024

～調査研究・実践  
事例発表会～

2024.11/16  
開催



Vol. **44**  
2025 WINTER

賛育会のホットな取り組み  
様々な取り組みをテーマ別にご紹介します。

賛育会病院: 太平一期工事のよもやま話「東京大空襲の煤が残る部屋」





## 賛育会のホットな取り組み

賛育会では毎年、各施設の調査研究・実践の取り組み(SEAP)を共有し、ミッション達成のため相互に研鑽を深めています。今回は、その内容を「ホットな取り組み」としてご紹介します。

### 病院でのソーシャルワーク ～母子支援～

#### 予期しない妊娠、出産に至った女性の力になりたい ～未受診・初診入院妊産婦への相談支援～



賛育会病院の2023年度680件の分娩数のうち、79件は16カ国の外国籍の妊婦。特定妊婦といわれる若年、経済的問題、妊娠葛藤、母子健康手帳未発行・妊娠後期の妊娠届、妊婦健康診査未受診等、多胎、妊婦の心身の不調といった、出産後の養育について支援を行うことが特に必要と認められている妊婦は80件でした。

未受診妊産婦や孤立出産に至った女性は、妊娠に気づいても、本人にとって信頼・相談できる関係性にある人がおらず、居所も不安定で一人で困っている間に出産を迎えてしまう。そんな現実もあります。

私たちソーシャルワーカーは、そんな方々へまずは無事に出産できたことや、自宅分娩後の緊急入院で健康管理が

開始できたことを肯定的に受け止めてもらうことから支援を行っています。ご本人が精一杯生活してきたことを否定せず、妊娠や出産をねぎらう支援を行い、率直に話してもらえ、関係性を築くことで、継続的に自分と子どもの人生を考え、より良い生活に向けた選択ができることをご本人と一緒に前向きに捉えていかれるようにしていきたい。そんな想いを持ちながら日々活動をしています。

母児に求められる支援と今後の支援の方向性として、女性を感じていることや、困っていることを相談できたことを経験として相談支援経過を感じてもらい、これからの人生のなかで、困った時は誰かに相談してみようと思ってもらえるような支援を行っていきたくと考えています。

(賛育会病院患者サポート部主任 母子支援室担当 飯島 貴代)

#### 「赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト」

#### 予期せぬ妊娠へのSOSコール対応「妊娠したかもSOS」

賛育会は、この日中の病院の母子支援相談に加え、昨年7月から匿名相談「妊娠したかもSOS」(夜間・週3日)を始めています。予期せぬ妊娠に悩む相談者の多くは若年層です。誰も頼れず、追い詰められ、生活に困窮する…。顔が見えない匿名の声の向こう側の「孤独」や様々な切実な事情に、生きる支えと繋がりを失った関係性の貧困を見る思いです。

夜間の相談員は、いつ誰からかかってくるかもわからないSOSコールを待ち続けます。相談員の役割は、“傾聴”と内容に応じた“情報提供”という名の寄り添いであり、それは“私は、あなたのそばにいるよ”というメッセージでもあります。

病院の母子支援とは別の形の匿名のSOSコールへの対応も、「もう一つ」の大切な働きであると実感しています。「妊娠したかもSOS」は、「全国妊娠SOSネットワーク」の相談窓口(全国55カ所)に加入しました。

この活動を通して痛感するのは、日本社会の女性の自立を支える仕組みの乏しさです。“女性と子にやさしい”社会は、みんなの命にやさしい社会です。孤立無援の心の痛みに寄り添うという地道な働きの先に、“一筋の希望”があり、“救い”があります。

(赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト事務局長 大江 浩)





# 地域共生社会に向けての賛育会の取り組み

賛育会クレドには「私たちは、一人ひとりを想い、地域とつながり、ともに生きていきます」とあります。また、このクレドを実現するための賛育会ベーシックには「わたしにできることは何だろう?」とのフレーズがあります。賛育会は創立以来ずっと、地域を大切に、共感し、地域とともに歩むには何をすべきかを問いながら成長してきました。

一都二県で事業展開をしている賛育会は、各地域で地域性を活かした地域共生社会の実践的な取り組みが行われています。社会福祉法に基づき2021年に制定された重層の支援体制事業では、「包括的相談支援」「参加支援」「地域

づくり」に分類されています。特に地域づくりの分野では、賛育会の各地域の高齢者施設が中心となり、地域の中で住民を巻き込んだ交流の場や居場所づくり、世代を越えた子ども食堂などを展開しています。

私は、地域で課題だと感じたときには、賛育会ベーシックに戻り、「わたしにできることは何か」を自身に問います。その結果、「たちばなカフェ」を開設しました。

今後も賛育会は、誰もがつながる地域共生社会を目指して、福祉という枠にとられない連携を模索しながら、分野や属性の壁を越えた協働を実践していきます。

(たちばなホーム施設長 吉田 美香)



## ともに働く仲間として ～特別支援学校とともに～

清風園(東京都町田市)

清風園では、特別支援学校「都立町田の丘学園」の産業現場実習の受け入れを2020年から開始し、障がいの特性をチームで協力しながら、3名の卒業生が働いています。本人を取り巻く環境が就労継続困難になったケースもありましたが、本人たちが「やりがい」をもってチャレンジできる居場所が清風園であるために、今のつながりを大切にしていきたいと思っています。



## 食を通じて幸せを地域 に届ける「幸腹弁当」

介護医療院とよの(長野県長野市)

豊野事業所は2019年の被災や新型コロナウイルスの影響により地域住民の方々との交流の場を失いました。そのようななかで、地域の方々のために何ができるのかを考え、「～食を通じて幸せを届ける「幸腹弁当」～」として配食サービスを始めました。配食により高齢者への安否確認や見守りを兼ねて地域住民の方々との関わりを大切に活動しています。



## 「たちばなカフェ」を 通じて広がる地域の輪

たちばなホーム(東京都墨田区)

たちばなホームでは、障がい者生活介護の「すみだステップハウスおおぞら」のご利用者の特養のご利用者が交流する「たちばなカフェ」を2023年度から開催しています。現在は千葉大学環境デザイン研究室や墨田社会福祉協議会も加わり、地域住民の参加が増えました。今後は、地域の居場所や相談にも応じる「たちばな版・プラットフォーム」を目指していきます。





## 「人」を大切に温かみのあるケアで、より質の高いサービスを

賛育会は、1964年東京都町田市に特別養護老人ホーム清風園を開設し高齢者福祉をスタートしました。時代の変遷とともに制度は変わってきましたが、賛育会の創立から変わらない隣人愛の精神のもとに、長きにわたりさまざまな取り組みがされノウハウを蓄積しています。そして、現在も各施設では日々ケアの質の向上に取り組んでいます。

各施設の介護職員が集まり毎月介護担当者会を開催しています。今年度のテーマは4つ、①生産性向上、②賛育会ベシックカード(新人職員向けの育成ツール)の見直し、③介護職員研修の企画立案、④次世代介護リーダーの育成です。

これらは、私たちが質の高いサービスを継続し、温かみのあるケアを実現するために、新入職員から外国人、高年齢層の職員も含めた幅広い職員の育成、そして、職員の負担を軽減しケアへ活かす生産性向上の取り組みです。

人口減少社会のなかで介護現場のICT活用がいわゆる時代ですが、機械はあくまでも人をサポートする手段の一つでしかなり得ません。介護は人と人とが関わり、つながる仕事です。職員一人ひとり、そしてチームワークを育み、私たちはこれからも「人」を大切に介護を目指します。それは、ご利用者、職員、そして地域にいる多くの隣人を大切にできる介護です。

(はなみずきホーム施設長 三好 健太郎)



### 子どもをまん中につなごう

さんいく保育園有明(東京都江東区)

毎日のヒヤリハットの情報共有は、全職員で保育園につながるすべての方に関わろうとする意識に変わり、保育全体の組織力となりました。

その組織力はチームワーク力を高め、子どもたちのためのプレイデー開催では、親子が楽しめる行事開催につながりました。職員のチームワークを大切に育むことで、保育力の向上を目指す良いキッカケとなりました。



### ケアマネジャー向け施設見学会の実施

相良清風園(静岡県牧之原市)

私たちのサービスをお伝えする場として、ケアマネジャーの皆さんに向け施設見学会を実施しました。

ご利用者の様子や職員のケアの見学、移乗リフトの体験、食事の試食など、1年間で10回の見学会を実施し、延べ44名のケアマネジャーさんが参加されました。「お互いに顔が見え、相談しやすくなった」等の感想もいただき、大きな成果となりました。



### ご利用者ご家族の思いを実現する支援のために

東海清風園(静岡県御前崎市)

東海清風園では、将来へのビジョンを描きながら積極的な業務改善に取り組んでいます。特に課題となっていた入浴業務に着目。ウルトラファインバブル発生装置を導入し、スキンケアの向上、安全かつ短時間で清潔を保持するための新たな支援方法に取り組んでいます。この業務改善で創出した人員と時間により、「一緒に外出したい」などのご利用者ご家族の思いに応えられるようになってきました。





## チームケアでより良い支援へ

### ～チームで取り組む大切さ～

豊野清風園(長野県長野市)

私たち豊野清風園は「チームケア」についての発表をしました。ご利用者に対し、担当職員が一人で問題を抱え過ぎてしまった事例を掘り下げ、他セクションを交えた検討会を開きました。大変な時こそチームで支え合い協力することの大切さを再認識し、振り返りをする事で今後のより良い支援につながるのだと実感しました。

## ご利用者に寄り添う時間創出

### ～ICTの取り組み～

第二清風園(東京都町田市)

第二清風園ではICT導入委員会を中心にICTを活用した業務改善の取り組みを行っています。SEAPでは、デイサービスでのご利用者支援への時間創出のための取り組みについて発表しました。ICTの導入というのは、これまで大事にしてきたものを捨て去るようなマイナスイメージを持ちがちですが、ICTの有効性を確認できた取り組みでした。

## 衛生管理

### 賛育会の感染対策への取り組み



世界的なパンデミックとなったCOVID-19は世界的規模のロックダウンにより、人類が過去に経験していない事態に陥らせました。日本国内では2020年1月に初の新型コロナウイルス陽性者を確認後、2022年8月には累計100万人を超える感染者数が報告されました。2023年5月に新型コロナウイルスが感染法上5類に移行されるまで、賛育会病院でも新型コロナ患者に対応するため、一般病棟を感染病棟に変更し、多くの患者受け入れを行いました。感染者数のピーク時には搬送先が見つからない妊婦が自宅出産に至り、児が死亡してしまうという痛ましいニュースの報道もありましたが、当院では小児周産期の特徴を生かして累計100人を上回る新型コロナ陽性妊婦の受け入れを実践しました。

これらの経験を踏まえて、国を挙げて感染対策が強化されるなかで、2023年7月より当院は感染対策向上加算1を算定しました。ICT(Infection Control Team:感染対策チーム)が中心となり、これまでも行ってきた自施設の感染防止対策の取り組みをさらに強化し、抗菌薬を適正に使用できるよう院内チームも立ち上げました。

また、地域の医療機関との連携体制を整え、活動範囲を広げています。法人施設においても高齢者施設等感染対策向上の観点から勉強会の開催、研修企画、施設の見回り確認を通して、地域の皆さまがより安心して賛育会を利用できるよう、賛育会全体の感染予防の向上に努力しています。

(賛育会病院看護部長 福田 えりか)

### 感染症発生時に適切に行動

#### ～見て・動けるを目指して～

マイホーム新川(東京都中央区)

外国人職員の多いマイホーム新川では、感染症発生時に適切に行動できるための現場で役に立つBCP(業務継続計画)の作成に取り組みました。

全職員への連絡体制、ゾーニングの注意事項、必要物品、ご利用者への説明文、優先業務の選定表を1枚にまとめ、見れば動けるようにしました。BCPを活用し訓練を重ね、ご利用者を感染症から守っていきます。



### より良いケアのための職員サポート

#### ～こころの相談室と腰痛予防～

東京清風園(東京都墨田区)

職員一人ひとりが生き生きと働ける環境がより良いケアに不可欠であると認識し、衛生管理者の立場からなすべき役割として、職員のメンタルサポート強化のための「こころのサポート相談室」開設や、「腰痛重度化予防」などの重要課題に取り組みました。

また法人内の衛生管理者との連携も重要と考え「統括安全衛生委員会」の発足を提案しました。



こころのサポート  
相談室



腰痛重度化予防



## 研修

賛育会では多様化するニーズに対応できる、幅広い視点を持った人材を育成するための様々な研修を行っています。

# 持ち上げない介護に取り組む意義



～介護する側・される側 双方における安心・安全なケア～

賛育会では、介護する側・される側双方において安心して安全なケアの提供、介護職員の働きやすい職場環境づくり、腰痛や身体的負担の軽減などを目的に2016年よりリハビリ担当者会、介護担当者会が連携し「持ち上げない介護」の取り組みを継続して進めています。

持ち上げない介護は機器を導入することが目的ではなく、それを活用し、継続、定着させることが非常に重要となり

ます。現在も毎年「持ち上げない介護研究発表会」を開催し各施設の持ち上げない介護の定着状況や課題などを共有し改善に向けて協議をしています。

また賛育会で統一したケアをおこなうため、機器類の使用マニュアル、移乗方法を選択するシートなども作成し標準化を推進しています。

(東京清風園生活部長・法人介護担当者会実行責任者 森田 裕康)



## SAN-IKUKAI HOSPITAL

### 賛育会病院：太平一期工事のよもやま話

# 「東京大空襲の<sup>すす</sup>煤が残る部屋」

賛育会病院の屋上に通じる小部屋は、「東京大空襲の煤が残る部屋」として、誰ともなく言い伝えられてきました。しかし、そう聞いているだけで、確たる証拠があるわけでもありません。解体工事が迫る中、どうしたものかと悩んだ挙句、近隣にある東京大空襲・戦災資料センターや江戸東京建物博物館、すみだ郷土文化資料館などに連絡をしたところ、ぜひ現場を見たいとの話になり、現地を見てもらいました。その結果、「大空襲の跡として間違いない」「戦争遺産として価値のあるもの」「メディアにもアーカイブしてもらった方がよい」との話になり、戦災資料センターの仲介で毎日新聞の取材を受け、昨年11月21日の夕刊に掲載されました。その影響で、他のメディア

からも取材依頼があり、6社のメディアが取材に来られました。(今後、何らかの形で取り上げられる予定です)

また、東京大空襲の爪痕については、一部を切り出すなどして、東京大空襲・戦災資料センターとすみだ郷土文化資料館に保管・展示される予定です。

戦争という大きな悲劇を乗り越え、すべてが戦火で焼かれてもくじけず、賛育会の先人たちが歩みを止めずに歩んできた証人を前に、今を歩むものとして、思いを新たにさせていただきました。

解体工事は来年の春頃まで続きます。今後も工事が続き、皆さまにはご不便をおかけしますが引き続き、ご理解とご支援のほどよろしくお願いいたします。



空襲で焼け残った外来棟西館最上階の小部屋

煤のついた天井の切り出し作業



切り出された炭化した木片

毎日新聞掲載





## 皆さまのお支えに感謝いたします。

2024年10月1日～12月31日までに下記の団体・個人の方々よりご寄付をいただきました。深く感謝申し上げます。  
複数回ご寄付頂いた方も表示は一度とさせていただきます。(敬称略・順不同)

恵泉女学園中学・高等学校	生田 厚子	栗田 和好	武知 鱗次郎	保科 弘毅
国立聖書研究会	伊藤 多恵子	栗山 政子	田中 邦子	堀口 栄子
小松寿し	稲本 佑子	河野 通久	田中 昇次	前田 太
日本基督教団 信濃村教会	今村 清子	古賀 節彦	谷口 博大	増田 喜代子
すぐろ商店	牛島 和夫	小林 利紀子	張 悦	松尾 光章
太平三丁目町会 金澤哲治	内山 瑛美子	小山 榮次郎	CHEN XI	松岡 裕子
第二清風園 職員有志	江口 洋一郎	小山 和子	塚本 洋子	宮崎 和貴
学校法人 玉川学園	遠藤 仙子	小山 哲司	月本 昭男	向谷 美佐子
東海機材株式会社	大久保 忠旦	櫻井 謙次	鳥羽 ノリ子	村松 武司
東海清風園 職員有志	大口 邦雄	佐藤 陽子	富岡 幸治	持田 侑宏
日本基督教団 東京池袋教会	大島 誠	澤田 敦子	鳥井 伸子	桃井 明男
有限会社ながしま茶園	大和田 由紀	柴田 和子	中川 幸雄	森 良雄
株式会社明治	小川 圭一	柴田 ひふみ	中島 誠	森重 勝
明治学院高等学校	小川 美奈	柴田 光昭	中根 卓雄	八木 はるみ
横川五丁目東部町会 高野義男	落合 美英	柴沼 明	中村 和郎	矢沢 栄子
横川三丁目婦人部	鬼塚 啓子	島田 恒	中村 基信	安間 ちょう子
相島 圭子	垣内 史堂	清水 利郎	西田 千佐子	山口 周三
青木 譲	梶村 慎吾	東海林 吉良	西原 文隆	山崎 暁子
青木 直典	形岡 暁生	鈴木 淳子	西原 良信	山田 公平
赤荻 佐和	金田 恵美子	須藤 たかえ	萩ノ谷 克範	山辺 和子
阿形 操	柏木 文代	住田 学	林 萬吉	湯川 寿々子
秋田 正人	片岡 愛	関澤 純	菱田 晴子	吉野 京子
阿藤 光英	片岡 大造	瀬山 俊一	平野 昭宏	横井 貴広
鮎澤 澄子	神谷 幸男	高崎 良子	福島 敬子	渡辺 誠二
安藤 美智子	木村 亮介	高野 茂信	藤田 寿彦	
石井 美奈	久保 マサ子	高林 眞理	藤野 勝美	
生川 鉄兵	倉持 登志子	武田 すぎ子	古田 和彦	

匿名希望 48名



## チャリティーコンサート2024～ともに生きる音楽会～会計報告

2024年10月18日すみだトリフォニーホールにおいて、チャリティーコンサートを開催いたしました。多くの企業、個人のお支えにより、ヴァイオリニストの大谷康子さん、オルガニストの竹佐古真希さん、指揮者の和田一樹さん、新日本フィルハーモニー交響楽団をお招きしての開催となりました。これからも、命の尊さ、命における平等と互いに支えあう気持ちで、ともに生きる医療の実践に努めてまいります。更なるご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

会計報告がまとまりましたので、心より感謝をもって報告させていただきます。収益金は賛育会病院建て替えの資金に用いさせていただきます。

収入	チケット販売	¥3,597,000
	寄付金(企業)	¥4,980,000
	寄付金(個人)	¥325,000
	募金等	¥357,911
	収入計	¥9,259,911
支出	チケット販売経費 (出演料、印刷費、通信費、税金等)	¥5,084,858
	経費 (会場費、印刷費、手数料等)	¥590,432
	支出計	¥5,675,290
収益金		¥3,584,621





## メッセージ



日本キリスト教団鶴川北教会は清風園を通して賛育会を支えてくださっています。  
同教会の田中雅弘牧師にメッセージをいただきました。

更に、イエスは言われた。「神の国を何にたとえようか。どのようなたとえで示そうか。それは、からし種のようなものである。土に蒔くときには、地上のどんな種よりも小さいが、蒔くと、成長してどんな野菜よりも大きくなり、葉の陰に空の鳥が巣を作れるほど大きな枝を張る。」

マルコによる福音書 4章30～32節



### 「どんな種よりも小さいが」 日本キリスト教団 鶴川北教会 牧師 田中 雅弘

「牧師さ～ん、ちょっと来てください!」、教会員から呼ばれて庭に出てみると、10センチ以上もある巨大な芋虫が、葉をむしゃむしゃと食べています。「からし種」を子どもの教会で庭に蒔きました。真っ黒い種は、塵埃のような小ささですが、しばらくすると芽を出し茎をのび、葉を広げて黄色い小さな花を咲かせました。背丈は2メートルを超える程にもなり、芋虫は成長したからし種の木に取りついて、一心に葉を食べています。「どうかしてください」との声で、つかまえて裏山に放しましたが、あれからあの芋虫は、どんな姿の蝶になったのでしょうか。

主イエスは「からし種の譬」で神の国について教えられました。「土に蒔くときには、地上のどんな種よりも小さいが、蒔くと、

成長してどんな野菜よりも大きくなり、葉の陰に空の鳥が巣を作れるほど大きな枝を張る」(マルコ4章31～32節)。目に見えないほどの小さなものを神さまは用いて、大きなみわざを起こされるのです。

二月は「光の春」とも呼ばれます。一年中で最も気温の低い厳寒の時です。立春とは言え、まだ春の兆しははっきりとは感じられません。しかし陽射しはもうすでに明るい春の色に変わっています。全ての生命は、恵みの光の中で、大きく成長するのです。



## INFORMATION

### SEAP2024入賞作品紹介 (San-ikukai Excellent Activities and Projects)

#### ～調査研究・実践事例発表会～

2024年11月16日にSEAP2024が開催されました。11組の発表があり、審査員の厳正なる審査、投票の結果、以下の作品が入賞しました。おめでとうございます。



#### 《最優秀賞》

##### ●「感染症BCPの定着 ～見て・動ける・を目指して～」

マイホーム新川：唐澤淳、上田勉、半澤しのぶ、佐藤宗昭、ヤンソクニサイ、鈴木千羽弥

#### 《優秀賞》

##### ●「ご利用者ご家族の思いを実現するために取組んだ入浴業務改善～介護人材難の時代における勉強会の実践から見えてきたもの～」

東海清風園：赤堀佐織、鈴木和夫、清水香織

#### 《優秀賞》

##### 《サマリア賞》(施設長が選ぶ賞)

##### 《からし種賞》(職員が選ぶ賞)

##### ●「たちばなカフェを通じて広がる高齢者、重度障がい者、地域住民との地域の輪」

たちばなホーム：渡邊ちひろ、國長法子

たちばなホームの作品がトリプル受賞となりました。



### 賛育会へのご支援のお願い

いのちの授業や子ども食堂、高齢者の居場所づくりなど、60を超える地域支援活動へのご支援をお願いいたします。

詳しくはこちらをご覧ください

賛育会ホームページ

「賛育会へのご支援のお願い」

(<https://www.san-ikukai.or.jp/participate/>)



## San-iku 通信

社会福祉法人賛育会の  
広報誌「さんいくつうしん」  
San-iku通信 Vol.44 2025年 冬号  
編集：賛育会法人事務局 発行人：中村 基信 発行所：社会福祉法人 賛育会

賛育会後援会だより **さんいく** 森

賛育会後援会だより 2025年2月号・第111号  
編集・発行人：小堀 洋志

印刷：(有)エースプリント (20250127-6550)

社会福祉法人 賛育会

〒130-0012 東京都墨田区太平3-17-8

URL <https://www.san-ikukai.or.jp/>

お問い合わせ

TEL：03-3622-7614



社会福祉法人  
**賛育会**